



過去問題集の大切さ

彼岸も過ぎ、朝晩は涼しい季節となりましたが、受験生にとっては、志望校の合否判定が気になる時期です。模試の判定で、A大学の合格可能性40%が表しているものは何でしょうか。それは、過去において、この時期にあなたと同レベルの模試成績であった人の40%はその大学に合格し、60%は不合格であったという事実を表しているにすぎません。これからの過ごし方次第で本番の合否は大きく変わってきます。合格、不合格を分ける大きな要因の一つが、過去問題集の取り組みにあるというのは誰もが認めるところでしょう。今回はこの過去問題集についても一度考えてみたいと思います。

過去問題集から得られるものとしては、出題形式、出題傾向、問題の難易度などがあります。過去に出た問題と同じ問題は出題されないから、過去問を解いてもあまり効果がないのではないか。このような質問を受けたこともありますが、過去に出た問題の種類が出題されることもありま



すし、もっと大切なこともあるのです。例えば、センター試験の数学について考察してみましよう。センター試験数学はマークシート方式で、出題される単元と配点は決まっています。難易度は年によってかなり異なります。かつては過去の類題が出題できないという制約もありました。では、センター試験数学を解くうえで手順が理解できている受験生はどのくらいいるのでしょうか。この手順を理解し実行できるようにするのが過去問を解く大きな意義の一つです。

センター試験数学は誘導形式のマークシートであることが大きな特徴であり、誘導をなくすと非常に

難易度の高い問題です。したがって、この誘導をうまく利用して解かないと高得点はとれません。設問を読んだら、すぐに解き始めるのではなく、問題のマークを見てどんな答えになるかを確認することが重要です。つまり、答の数値は整数なのか、分数なのか、無理数なのかは与えられているから、それを頭に入れないながら解くのです。そうすると計算間違いは格段に減ります。極端な場合、答の形から計算しなくても答がわかってしまうことさえあるのです。

例えば、三辺の長さが三、四、五である三角形の内接円の半径を求める問題が出題されたのですが、答が整数と限定されていたので、半径は一と決まってしまうました。次に、問題に詰まったら、必ず直前の問いを見ることが実行できていますか。誘導形式だから、直前の問いが次の問題を解く大きなヒントになっています。たった二つのことをあげましたが、これが実践できている受験生が案外少ないのです。この二つのことができるように訓練するだけでも過去問題集を解く価値はあります。合否判定を覆したければ、過去問を解くのが必須条件です。

(村上)

機会を無駄にしているませんか？

社会人になってから機会とは自分で生かすものだと思うようになりました。例えば、私には有難いことに、講師になってから皆さんにより良い授業ができるようにするための機会が与えられています。

私は月に何度か先輩講師の前で授業を行い、アドバイスをいただきながら日々の授業に生かしています。ただ、この機会も事前準備を行わなかったり、目標とやる気を持たずに臨んでしまうと何も成長はありません。時間の無駄になってしまいます。自己次第で同じ機会がチャンスにも無駄にもなります。

皆さんはどうでしょうか。様々な機会を有意義なものにできていますか。どんなことでも構いません。

自分が成長できるチャンスが無駄にしていなか自問自答してみましよう。もし無駄にしているようなことがあれば、どうしたら、より自分の成長につながるができるのかを考えてほしいのです。

私が身近なところで感じるのは、日々の数学(算数)の確認テストです。数学(算数)の授業時にほぼ毎回確認テストが行われると思いますが、皆さんはあの確認テストを有意義に活用できていますか。

今回は同じ確認テストを受ける二人の例を挙げてみたいと思います。一人目は、確認テストの内容をすっかり忘れてしまっているために、テスト中は問題をただ眺めているだけ。答え合わせのときも、解答を写すこともせず、ただ確認テストを受けるだけ。二人目は、テキストの問題の復習をしてから、テストに臨む。答え合わせのときは、自分の解答と見比べてどこを自分が間違えてしまったのか見比べながらメモを取る。間違えた問題は、宿題のノートにやり直しまでしっかりやってくる。



とても極端な例ですが、皆さんはどちらの生徒が成績を上げていると思いますか。二人とも同じ確認テストを受けていますが、二人目の生徒のほうが明らかに確認テストを自分の勉強のためにうまく活用できていると思えます。はじめに書いたように、同じように与えられている機会をチャンスにするか無駄にしてしまうのか、それは自分のやる気や目的次第だと思つのです。

私たちが行っている確認テストは、皆さんが学習している内容の大切な問題を集めています。だからこそ、この確認テストを皆さんにもっとうまく活用していただきたいと考えています。受けた確認テストで間違えてしまった問題は解きなおしをする、間違えた問題を集めて自分の苦手問題ノートを作って、定期テスト前に理解できているか、あるいは定着し

ているか確認してみる、こういったことをやってみてはどうでしょうか。みなさんが身の回りがある、さまざまな機会をチャンスに変えられるように、私は一緒に考えていきたいと思っています。(梅田)

創学舎を有効に使おう

みんなは創学舎にどういう気持ちで通っているだろうか？

成績を上げたい、志望校に合格したいと思っている人、自分で勉強しているとはかどらないから通っている人、親に言われていやいや通っている人。創学舎に通い始めた理由は人それぞれだと思う。そして、現在の気持ちは？

毎回充実した気持ちで通ってくれている人はその調子で。それとも何となく毎回通っている？とりあえず成績も維持できているから通っている？通っていても成績がなかなか思うようにいかない人もいるかな？

ここで、塾の利用の仕方について今一度確認してみよう。

① 授業を「聴いて」いるか？

まずは授業について。遅刻・欠席をせず参加するのは当然として、参加しているときの姿勢はどうか？参加する準備としては、忘れ物はないか？宿題は毎回きちんと行っているか？そして、授業で講師の話を書きりと聴いているか？ただ、耳から音声が入ってきているという意味の「聞く」でなく、心を傾けて聴いているか？「聴」は耳に目と心を加えて(+)して「聴く」のだよ。さらに、聴きながら頭を使っているか？この頭を使いながらというのは、別の機会に回す。このあたりが自然と出来ている人は、成績も上昇傾向にあると思う。

自分もしっかり聴いているのに、分からないし成績も上がらないよ〜という人、もう一度自分の授業

中の思考を思い出してみよう。講師の話の聴いているときに、「腹減ったな〜」など他のことを考えているか?聴いていたとしても、内容や仕組みを理解しようとしているか?自分では聴いているつもりでも周りから見たら聴いていないなんてこともある。

② 分からないことをそのままにしないか?

授業中や宿題で分からないことがあったときどうしている?そのままにして忘れていくかな?問題を一回解くところまではみんなやる。真面目な生徒だと必ずやる。問題はその後。何度も言われているはず。間違えた問題は、解説を読んで解き直すこと。この解き直しにもコツがある。単なるミスなら解き直してできればオッケ。解説を読んで間違えた理由が分からないものは、質問する。



質問の仕方にもコツがある。「この問題が分かりません。」ではなく、「この解説のこの部分の意味が分かりません。」と訊けるようにしよう。

③ 自習室や個別チェックを積極的に利用しているか? 受験生は、質問やチェックも多くなり、授業後に講師のところに行くこともあるだろう。受験生以外の生徒も自習室の利用や質問をどんどんしよう。自習室は普段の環境と変えて学習に集中して取り組むことができる。家で学習が順調に進められる人はいいが、そうでない場合は環境を変えて学習しよう。また、問題の質問以外に、学習の方法、取り組み方など自分の学習スタイルをチェックして講師にアドバイスをもらうのもいいだろう。

その他にも創学舎の利用の仕方は色々あるだろう。ここで言いたいことは、積極的に、受動的ではなく能動的に、意欲的に、言葉は違うが、とにかく気持ちを前に向けて利用しよう。自分のことだ。自分のためになることだ。それだけで結果も気持ちもいい方向に動き出すと信じている。(松永)

帰宅したとき家族全員水着でブリッジ

●今年の高三生にも出てきた!一日英単語を一九〇〇個やる生徒が何人か。(私の授業をうけていないひとは少し説明が必要だがそれは後ほど。)空き時間を見つけてものすごいスピードでくり返す。以前何人かの保護者から「批判的に」あんなので覚えられないんですか?と質問されたことがあったが、結果的に間違いなく覚えられている。これからは、もっと速く、効率よく続けてほしいと思う。

●さて、教師も大人も、ある程度の進学を果たした先輩も「記憶すること」については同じようなアドバイスをやる。「何度もくり返せ」「理解しろ」「印象付けろ」「ゴロあわせを考えるといいよ。」等々。そして、それぞれある意味で正しい。私も、説明の中で同じセリフを使うことは多々ある。ただ、「記憶する(覚える)こと」についての分析は他の人から聞くことはあまりない。仕事柄、勉強に関する本は片っ端から目を通すが、記憶の本質について述べてある本は極々少数。(その点池谷裕二さんの本は共感することも多く、ずいぶん助かった。)一体、記憶する(覚える)とはどういうことなのか?受験生向けに定義してみた。



●例えば、学校帰りに、ナイフを持った男に追いかけられたとする。走って逃げて無事だったが、そのことは一生覚えてはいるはず。家に帰ったら、家族全員が水着姿でブリッジをして玄関で待っていたら、それも一生覚えてはいるはず。何故覚えられるのか?それは両方とも、感情が動いた、大きく動いたからである。ここに記憶する(覚える)ことの本質がある。つまり記憶は感情が動いたときに強くなるのだ。

●一方で、記憶する(覚える)には、そのことへの興味・関心とその強さが関係する。理科はすぐ覚えられるけど社会はなかなか覚えられないというのも一つには興味関心も関わっている。「嵐」の大ファンなら、ちょっとした情報でも心が動きすぐに記憶されるだろう。全く興味なければ名前を知っているぐらいか?名前すら知らない人も勿論いる。興味・関心があるかどうかは大きな問題なのだ。

●ここで、記憶する(覚える)を受験の科目にもどし、英語をとりあげてみる。「英語は大事か?」ときかれれば多くの人は大事だという。しかし、それは観念的で経験的な物の言い方である。大半の受験生は、受験科目に英語がなければまず勉強しない。(保健の教科書を毎日熱心に読んでいる生徒が皆無に近いのと同じことである。)そして「受験に不要ならやらない」とは、心から大事とは思っていない、強い関心はないということだ。



●実は先述した英語のやり方は、こうした認識の上になり立っている。否、私が指導する勉強法は全てこの認識に基づいている。①記憶は感情が動いたときに強くなる。②興味関心がなくても身につけなければならない。③(そして)興味関心をそいではいけなし、また興味関心はやっていくなかで育ってくるものである。④(さらに)最初であろうと途中でであろうと理解が伴わないと記憶は弱い。これらのことを考慮して指導している。

●で、英単語の覚え方。まず準備①読めない単語は塾のプリントを利用して読み方を写す②日本語訳の意味の分からないものは調べて書き込む。読めないもの、意味の分からないものを覚えようとすることは、そういう脳の習慣を作るので頭が悪くなる。絶対にやってはいけないことだ。●ここから本番。①最初はざっと見る(目に慣らす)。②一単語一秒で英単語をみて、意味を一つ思い出す。③そのとき感情を動かす。

④「分った」↓(確認)

して「合ってた」 ⑤「何だっけ?」↓(確認して) 「あ、そうか!」 ⑥でも⑦でも二回動かしただけになる。④覚えようとしな。覚えなくてよい。感情を動かすのみ。

●一回に動く感情は微細なものだが、一回、二回と続けられれば大きな効果をもって記憶につながっていく。但し、気をつけるのは、五秒とか一〇秒とかを一つの単語に使わないこと。脳が疲れるだけ。もし五秒使うなら、一単語一秒を五回やるほうが断然優る。そもそも、心から大事だと思っていないことは記憶しづらいようになっていく。小さな感情を動かしてやり続ける。

●このような短時間でくり返すやり方を「ペンキ塗り法」という。ペンキは少しつけて、素早く薄く塗る。それを何回もくり返すことできれいに仕上がる。これは、英熟語や古文単語など色々なことに応用できる。



●気をつけることが二つある。一つはやったことがない人には理解できないということ。最初に教えても生徒は誰も信じない。まず、続けるのに言い続ける人が必要だ。もう一つは、科目によって、その科目の分野によってはこれとは真逆のやり方が要求される。例えば数学は「ペンキ塗り法」は適さない。

●高三生での平均でいえば一日五〇〇語ぐらい。これでもターゲット一九〇〇が四日でまわされる。これでも立派なもの。五〇〇語でも五〇〇秒。電車の中で、休み時間ですませる。「ん、書いたほうがいいのでは?」その通り。特に中学生は書く練習もすごく大事。大学受験生もこれくらいは書けないといけないというレベルはある。そのことはまた改めて。

(小林)

▼▲継続希望の方へ▲▼
▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送りいたします。
▶在籍していた教室までご連絡ください。